

山口県男女共同参画推進キャラバン隊が訪問

十月十八日(月)、男女共同参画の推進を呼びかける山口県男女共同参画推進キャラバン隊が油谷町を訪れました。

山口県男女共同参画キャラバン隊は、大泉博子副知事を代表として、県環境生活部長の今村孝子さんなど県の代表十二人で構成されています。

当日は、役場玄関前で大泉副知事が二井関成知事からのメッセージを藤田町長に手渡され、藤田町長も「これからも重要推進課題として位置づけ、積極的な啓発活動と総合施策に取り組んでいきたい」

というメッセージを託しました。

メッセージ交換の後は、役場三階会議室で、意見交換会が行われ、油谷町からも、町議会、自治会の代表、地域づくりの会のメンバー、役場関係者など二十人が出席し、男女共同参画の早期実現をめざして話し合いが行われました。

意見交換会では、少子化、高齢化社会に対応した地域づくりのあり方や、女性の社会進出について、また、共働きについての意見など積極的に意見の交換が行われました。



▶意見交換会のようす

油谷町にも「ゆや地域づくりの会」が発足



会長の山本信子さん

男女共同参画社会の実現に向けて、油谷町にも今年4月から「ゆや地域づくりの会」が発足しました。

「ゆや地域づくりの会」とは、昨年12月、油谷町文化会館で「やまぐち男女共同参画会議」及び「セミナーゆや実行委員会」の主催により、「地域づくり 私が変われば町が変わる」と題して開催されたセミナーにおいて、磯野恭子参画会議代表の講演と分科会での討論により、男女共同参画による地域づくりについての研修を行い、これにより多くの問題が提起されたことより更に学び、行動し、地域の発展に寄与したいということから発足する運びとなり、現在、家庭・環境・福祉の三つの部会で約30名の方が活動されています。

地域のことを真剣に語り合うときは、何かすばらしいものを生み出せそうな予感に満ちており、それが大きなエネルギーになるものです。女性の社会進出が求められている現在、皆さんも地域づくりについてもう一度考えてみませんか。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

連絡先 ■ 「ゆや地域づくりの会」会長 山本信子 (油谷町新別名) ☎ 32 - 1028

男女共同参画社会実現に向けての基本目標

- ① 人権尊重の視点に立った男女平等の推進
一人ひとりがもつと輝いて個性きらめく
- ② あらゆる分野における男女共同参画の促進
女と男、力を合わせることで広がる新しい明日
- ③ 多様な働き方を可能にする条件整備
能力を活かし共に働く喜び等しい関係
- ④ 男女が共に自立し豊かに暮らせる社会の形成
健やかで安心して豊かに暮らす



知っておきたい用語

● ジェンダーとは

生まれ持った生物学的な性差ではなく、「女の子はピンク、男の子はブルー」「女は優しく、男はたくましく」など、社会的・文化的に規定された「女らしさ」「男らしさ」のことを言います。

るじ」だから免除されていた。「ごちそうさま」と言った後「ごろ寝と新聞」の特権が認められていたのである。ところが、先日届いた選挙の入場券を見て驚いた。何と、私は「世帯主」ではなく「世帯代表者」となっているではないか。いつのまにか「あるじ」の地位は奪われていたのだ。ショックだった。「なんだこれは。こんな重要なことを国民投票にもかけず決めるなんて……」しかし、「一晩考え込んでお父さんは改心して、今は黙々と食器を流しに運んでいる。革命によって王座を奪われた王様のような心境である。」

こうして運ばれた食器は妻が洗うが、拭いて棚にしまうのは子どもたちの当番制だ。もちろん息子にも週二回の義務を忠実に果たしている。彼は、浅はかにも「こんなことが女がすればいいやんか」と言っ飛ばし、妻と娘から猛攻撃を受けたのだ。徹底的に思想改造された息子は、今や完璧な「ジェンダーふり」となり、「おれは結婚しても、父さんみたいに家事を全部お嫁さんにさせるようなことはしない」と言い出す始末である。もはや、お父さんには制度的に認められた特権や権威はないのだ。やがて、最後の砦である「世帯代表者」すら家族の選挙で決める日がくるかもしれない。(今でも、お父さんに決まっているわけではない)。そのときお父さんは勝ち残れるのか。全国のお父さんどうしよう。

○エッセイ「男の本音作品集」の最優秀作品